

はじめに 新城休日診療所 管理者 永田龍司



はじめに、小生と新城市との関係を紹介させていただきます。郷里は岐阜（中津川）ですが妻が東栄町出身でもあり、昭和46年より、新城市民病院内科へ勤務させていただきました。約17年間勤め、昭和63年より新城市豊栄に永田内科を開業、地元の患者さんを診療させていただきました。平成12年からは新城医師会新城支部長として、保健センター、介護保険関係、防災関係等に、市の地域医療の縁の下の力持ちをさせていただきました。健康上等の事情もあって平成19年度で永田内科の方を閉院させていただきました。

現在は、医師会の方で、休日診療所管理者の任務、又、パートで市民病院健診センターの仕事もお手伝いをさせてもらっています。

次に救急医療についての御話をさせていただきます。小生や妻の父が開業医であった時代には医師は、365日、24時間、かかりつけの患者さんに対応して来たと思います。しかし医療の進歩にともない患者さんのニーズは質、量ともに増え、医療側もこれに答えるべく当番制となりました。又、一次、二次、三次医療と専門に分科されました。新城医師会及び歯科医師会について言えば、救急体制は古く昭和54年より医師会館内に医師会立休日診療所と、昭和60年より夜間輪番直が実施されその責任を、満点とは言えないが果たして来たと思います。さくらの里に保健関係の施設が集中化された際に休日診療所は市で新設され、医師会はその運営を委託されています。最近の救急医療崩壊前までは、救急医療は医師会と市民病院（一次と二次）の二本立てで行われ、充足して来たと思われまます。

研修医制度の改正により、実質6ヶ月で専門を決めて一人前に仕事をしていたのが研修期間が4年にも延長されてしまいました。医師供給のベルトコンベアーが徐行の速さになって医師不足となりました。5年目の見直しの時期となり国も考えはじめた様だが、早く医師不足が改善されることを望みます。

開業医訪問 地域医療の今昔

織田医院 院長 織田義人



祖父が明治44年に山間僻地で無医村であった当地に、出身地であったが故に乞われて開業し、昭和35年死亡するまで現役の村医でした。その後を私が継承して今年で早や50年になります。

当時は引佐町に通ずる国道257号は、まだ砂利道で曲りくねっていました。国道から四方の山々に林道や農道を出し、山壁にへばり付く様に人家が点在していました。往診は専ら自転車、オートバイで昼夜飛び回っていました。昭和34年に軽四輪車が公認され早速スバル360を購入しましたが、患者までの道が狭く途中で下車して往診鞆を肩に30分位山登りをするのが常でした。

内科、小児科を標榜していますが、かかりつけ医としては全科に関わり、幸いにも地域住民の温かい人柄

勤務医訪問 新城市民病院

医療部長兼内科診療部長 祖父江文男



診療部長をしています祖父江文男です。神経内科を専門としています。

平成5年4月に私が赴任するまでは、神経内科医は週に1度の代務医が行っておりました。

当時の内科は消化器科が3人、循環器科が2人、内分泌が2人、呼吸器科、血液内科が各1人と10人が担当しており、充実した診療体制が調っておりました。5年前には神経内科専門医を新たに迎えることが出来、更に体制が強化されておりました。3年前からの急変については今更述べる事はありませんが、その変化の中、変ることなく専門外来として神経内科を続けております。

神経内科というと稀な疾患を対象とするものと思われがちですが、脳梗塞やパーキンソン病、あるいは

織田医院

と地域医師会の連携で大過なく医療に従事してこられました。次第に少子高齢化が著しく進み、私自身も後期高齢者になり、現在は高齢者の相談相手として生き甲斐を感じて居ります。

昨年20年もかかった国道257号改修工事が完成し唯一の信号機が近くに設置され、織田医院はその北側を通る旧道沿いになりました。車の騒音も無くなり昔の静寂が戻りました。これからも少しでも世の中のお役に立てたらと思っております。

- 診療科 内科、小児科
- 住所 新城市下吉田字紺屋平 66
- 電話 0536-34-0021

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 3:30~6:00	○	○	○	×	○	×

休診日：木・土曜日午後、日曜日・祝日



↑織田医院全景

新城市民病院 神経内科

は認知症なども含まれており、症状としては痺れや麻痺、不随意運動、頭痛や眩暈など多岐にわたっており、高齢の患者さんが多い事から、合併症も同時に診察させていただく事が多い科です。その中で特定疾患など、治療法の確立されていない疾患の患者さんの診療や治療、また寝たきり患者さんの訪問診察も行ってきております。

更に当病院は愛知県の難病医療推進ネットワーク事業の三河地区協力病院に指定もされております。現在専門外来として認知症外来も開設しており、これからもこの地域での医療に微力ながらも貢献していきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

新城市民病院2階



↑神経内科受付

新城市夜間診療所（へき地医療支援室）

皆様のご支援により昨年10月開設いたしました夜間診療所の受診状況をご報告させていただきます。

下表のとおり10月から12月の3か月間で、受診回数46回、受診件数182件でした。1回当たりの件数は4.0件となります。在宅当番医と合計した1回当たりの件数は6.8件となります。前年（夜間診療所が休診する年末を除く。）の在宅当番医の1回当たりの件数は

市民病院入口案内板→

5.8件となりますので、夜間診療所が開設したことにより時間外診療が充実したことがわかります。急に発熱した、急にお腹が痛くなったなどの症状が出た場合は、電話で予約のうえご来院ください。



新城市夜間診療所受診状況調査

受診月	回数	受診件数	科別数		地区別数				在宅当番医 受診件数	夜間+在宅 受診件数	1回当たり 受診件数	19年度在宅当番医実績 1回当たり受診件数
			内科	小児科	新城	鳳来	作手	他				
10月分	16回	55	27	28	39	9	2	5	48	103	6.4	5.5
11月分	15回	64	21	43	52	8	0	4	42	106	7.1	5.4
12月分	15回	63	30	33	54	3	1	5	41	104	6.9	6.6
計	46回	182	78	104	145	20	3	14	131	313	6.8	5.8

29日~31日を除く